

## 「外国人学校ネットワークかながわ」 3年間の活動をふり返って

外国人学校ネットワークかながわ共同代表 フェリス女学院大学准教授 大倉 一郎  
外国人学校ネットワークかながわ世話人 多文化共生マネージャー 藤代 将人

### はじめに

「外国人学校ネットワークかながわ」（以下、Kネット）の設立前年だった2009年当時、外国籍の子どもたちの教育問題に詳しい佐藤信行氏は『「教育の場」を奪われる子どもたち」と題する論説で次のように指摘した。学齢期の子どもたちは、言葉の壁、学校に馴染めない、いじめ、学習の遅れ、未就学、中途退学、保護者の生活の不安定といった問題に直面している。外国人登録者数約221万人のうち、小・中学生にほぼ該当する子どもは約13万4千人。必ずしも日本の学校が教育・学習の場になっているのではなく、急増する外国人学校がその場となっている。「外国籍の子どものうち21%が外国人学校に通っている。彼ら彼女らにとって外国人学校は、いわば『サンクチュアリ』であり、『最後の受け皿』なのである」（『Mネット 2009年11月号/No.124』）。

佐藤氏の言う『サンクチュアリ』『最後の受け皿』としての外国人学校はもっぱらブラジル人学校や近年のアジア系外国人学校を指すものであったが、神奈川の17校（当時）に及ぶ外国人学校は、朝鮮学校をはじめとして、その歴史的・社会的経験から後発の諸学校の困難に共感し、課題を理解することができた。むしろもっと積極的に外国人学校と子どもたちの持つ可能性の豊かさを考えることができたといえるだろう。2007年にはKネット設立への動きが始まった。当時、準備会により、関係者たちが協力して課題に取り組もうとする雰囲気生まれた。個々の学校単独では、解決が困

難な事柄でも、ネットワークを活かせば関係者の協働も可能だと考えたのである。

### 3年間の歩みから

2010年2月17日、市民有志がKネットを設立した。「Kネット設立宣言」は次のように記した。「すべての子どもたちは、将来その能力を発揮することを通じて、多文化社会を創造する可能性を宿しています。固有な民族や言語や文化の遺産を継承した子どもたちは、その出会いと協働を通じていっそう豊かな多文化社会を形成するでしょう。神奈川の外国人学校は、その未来に向かって子どもたちの教育をいま支えています」。このような理解に立ってKネットは活動を企画し、3年間に①県内の外国人学校訪問、②外国人学校関連映画の上映会、③神奈川県が多文化共生イベントへの参加、④Kネット月例会議の継続などに取り組んだ。

#### （1）外国人学校訪問

市民や学生の参加も呼び掛け、海老名インターナショナルスクール（現在は綾瀬市に移転）、横浜山手中華学校、横浜中華学院、横浜サンモール・インターナショナルスクールを訪問し、授業見学、担当教員の話聞いた。教育活動、学習状況など実態に即した現状理解のためであった。紙幅の関係により、海老名インターナショナルスクールと横浜のサンモール・インターナショナルスクールの訪問について報告する。

海老名インターナショナルスクールの訪問は2010年5月25日。創立2年目でイスラムのモスク

に仮住まいの学校であった。英語や日本語の授業、聖典クランの学習などを見学した。校長先生から同校が抱える問題などについて伺い、さ



海老名インターナショナルスクールの授業風景

らに懇談の中で認識の共有を図った。遠隔地のために通学困難な子どもたちがいること、校庭など施設が整わないため困っていること、創立から日も浅く各種学校への認可申請の手続きの仕方や補助金に関する情報が十分に得られないことなど、直面する問題は山積していた。Kネットから今後の情報アドバイスなどを申し出た。

2010年11月17日には、サンモール・インターナショナルスクールを訪問した。1872年創立の欧米系外国人学校で、モンテッソーリ教育(注)を導入し、演劇教育などの特色もあり、教育方針は、性別、国籍、宗教に関わらず、国際人として成長できるようにサポートすること。幼稚園、小学校、中学校、高校を擁し、生徒数は約400人、教員も非常勤を含めて70人ほどおり、外国人学校としては比較的大きな学校といえる。校庭、図書館、ホールなども充実していた。

以上、教員や運営などの体制、財政や施設の規模など対照的ともいえる学校を取り上げたが、外国人学校は歴史的背景や教育・学習環境が一様ではなく、むしろ著しい隔たりが存在する実態が見えてきたといえる。

## (2) 外国人学校関連映画会・多文化共生イベント・月例会議など

2009年9月に「開国博Y150周年」記念イベントとして、Kネット準備メンバーによって外国人学校発表会を開催した。ブラジル人学校、朝鮮学校、その他の外国人学校の子どもたちが歌や踊りを披露し喝采を得た。2010年2月の設立集会では宮島喬法政大学教授による記念講演を実施。その後、首都圏での外国人学校支援グループの交流に参加。2011年は東日本大震災後の状況下で一時的に活動が足踏みしたが、2012年9月にブラジル



エスコアラ・アクアレラ・ブラジル学校の外景

人学校のドキュメンタリー映画の上映会、11月に東日本大震災被災後の東北朝鮮初中級学校のドキュメンタリー上映会を開催した。多文化共生

イベント「あーすフェスタ」には、あーすフェスタ企画委員を送り出し、毎年、参加団体となっている。その中で外国にルーツを持つ子どもたちの絵画展を開いた。月例会議は横浜の神奈川県民サポートセンターや厚木のYMCAにて開催している。県内各地の参加者の広がり願ってのことである。参加者は教員、弁護士、団体職員、NGO関係者、大学生等である。

## おわりに

3年間の活動をふり返って、幾つか重要と思われるポイントを挙げておきたい。第一に外国人学校の実態把握の重要性である。前述のとおり各学校の歴史的背景や日本の法制度及び教育行政上の処遇などの違いによって、学校間の現状の隔たりは大きい。閉校に追い込まれるなど、実に困難を抱える学校もある。学校を必要とする子どもたちを思うと、実態の把握とそこに立った支援の必要を痛感する。Kネットでは訪問記録を蓄積してきた。それらが活用されることを切望する。第二に外国人学校の情報発信と分かち合いの必要性である。多くの人々に外国人学校の実態を知り理解を深め関心を注いでほしい。いっそうの社会的関心を喚起したい。第三にKネットの活動やプログラムへの人々の参加の広がり必要性である。特に外国人学校教員や保護者など当事者、行政関係者などの参加を呼び掛けたい。相互対話と理解から本当に必要な変化が始まると思う。

(注) モンテッソーリ教育法の基本は、「子どもは自らを成長・発達させる力をもって生まれてくる。大人(親や教師)はその要求を汲み取り、自由を保障し、子どもたちの自発的な活動を援助する存在に徹しなければならない」という考え方にある。(公財)才能開発教育研究財団 日本モンテッソーリ教育総合研究所

<http://sainou.or.jp/montessori/index.php>